

風邪への民間療法から見る日本人の身体観

斉藤・保科

みなさん、
風邪をひいてしまった時、
どうしてしていますか？

導入

- 地域によって多種多様な風邪への対処法
- いくつかの民間療法を“身体観”という切り口から考えることで、日本人の価値観を俯瞰してみる

仮定した日本人の身体観

- 身体の“中”と“外”との概念的な隔たりが比較的強く表れるのではないか

例1「マスクをする」

- “中”と“外”の区別を強めるもの、として捉える
- 欧米では日本ほど一般的ではない
- 予防的な役割
- 他人にうつさないため



例2「人にうつすと治る」

- 自分の“中”にある病気というモノを“外”に出すというイメージ
- もちろん迷信的要素大
- 人にうつる頃に丁度治るだけ

例3「うがいをする」

- 予防的な役割
- 風邪対策としてのうがいは日本特有
- 汚いモノを身体の“外”へと出すイメージ
- 帰宅後の手洗いうがいは、汚いモノを家の“中”に持ち込まないというイメージ



つづき

- ここまで風邪への民間療法という観点から見てきたが、西洋との比較をしながらもう少し別の視点で見てみる

日本の「家」と欧米の「家」

- 色々と違うところがあるけど・・・
- 構造の違い
- あり方の違い



私たちの主張

- 身体というのを「家」まで拡大して考えられるのでは？
- 身体を「家」まで拡大して考えると、身体の内と外には隔たりがあるのでは？

素足と土足

- 日本は靴をぬぐ
- 西洋は靴をはいたまま

シャワーをいつあびるか

- 日本は夜あびる人が多い
- 西洋は朝浴びる人が多い

外開きと内開き

- 握手もしくは抱擁が基本的な挨拶である西洋
- お辞儀が基本的な挨拶である日本

訪問者に対しての心理的距離を表してるのか
もしれない

他の説

- 機能面

日本：狭い靴おく ⇒ 外開き

- 防犯面

内開きの方が実は安全？

日本でも城門は昔から全て内開き

まとめ

- 日本人は西洋人と比べて内外の差を大きくとらえるのではないか。